

平成28年度 自己評価表

鳥取県立鳥取湖陵高等学校

<p>中長期目標</p>	<p>(1) 生徒一人ひとりの心情を理解し、共感と相互信頼に基づいた指導を行う。 (2) 生命を尊ぶ心、人権尊重の心を育て、共生の精神を養う。 (3) 実験や実習などの実践的学習により、勤労観・職業観を養う。 (4) 特別活動を重視し、生徒の自主性・主体的な学習を促進し、協調性を養う。 (5) 資格・検定の取得やキャリア教育の充実により、生徒一人ひとりの進路実現を図る。</p>	<p>今年度の重点目標</p>	<p>教育活動全体をととして生徒理解を徹底し、一人ひとりに応じたきめ細かな教育を行う。 (1) 学力向上の推進 ～主体的学習者を育成するために、協同学習(協調学習を含む)を推進する。学びの質や深みを重点とした授業実践を進める。また、基礎学力の定着に向けた取り組みを学校全体として組織的に行う。 (2) ICT教育の推進 ～アクティブラーニングを推進するため、iPad及び電子黒板機能を有するプロジェクターを利用したICT教育を充実する。情報科学科1、2年生がiPadを常時携帯することで、授業だけではなく、部活動、反転学習を含めた家庭等での利用場面の広がりについての効果を検証する。 (3) キャリア教育の推進 ～キャリア教育学校全体計画に基づきキャリア教育を推進する。キャリア教育の推進に地域、産業界との連携及び協力をお願いする。規範意識や人間関係形成力、主権者教育を含めた社会参画力を育成する。 (4) 活力ある学校づくり ～スペシャリストの育成を目指す。学校独自事業による「技術挑戦事業」「調査・研究」「チャレンジ資格」などに取り組む。部活動や生徒の自主活動の一層の活性化を図る。 (5) 開かれた学校づくり～本校の教育をより積極的に地域、企業、関連進学先、及び中学生に知っていただくことを目的に11月に湖陵フェスタを開催する。「異世代交流事業」「地域ときらり事業」「中学生一日体験入学」「中学生部活動体験会」を推進し学校ホームページの積極的な運用と報道機関、保護者への情報提供を行う。また、土曜授業等に取り組む。</p>
---------------------	--	------------------------	---

年度当初					達成度参考基準 学校評価アンケート (生徒・保護者)等	評価結果 ()月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標	目標達成のための方策		経過・達成状況	評価	改善方策
学力向上の推進	○学力向上と学習指導の改善 ～鳥取湖陵高校流の学びの集団づくり～	○教職員各自1回以上の公開授業は、予定どおり実施されており、複数回実施の職員も増加。協同学習ワークショップや授業研究会も校外にも公開して実施し授業改善に取り組んでいる。	○「学び合い」を取り入れた授業の実践をさらに推進するとともに、鳥取湖陵高校流の学びの集団づくりを構築する。	○引き続き各自1回以上の公開授業を進めるとともに、積極的な授業参観や授業研究会を行うことにより授業改善をより一層推進し、主体的な学習者を育成する。	○本校の先生は授業がわかりやすいように工夫をしていると答えた生徒の割合(H27年度末 73.0%) A80%以上 B75%以上 C70%以上 D65%以上 E65%未満			
	○基礎学力の定着	○家庭学習がほぼ毎日できている生徒の割合は減少傾向にあり、自宅学習を促すことが十分出ていない。 ○基礎力診断テストを年3回実施するなど基礎学力向上に向けた取組を進め、その効果が少し表れている。	○家庭学習がほぼ毎日できていると回答する生徒を昨年度より増加させる。 ○基礎学力の向上と各科の専門技術の習得をととして、生徒の学習意欲の向上を図る。	○各科・教科で資格・検定の学習や課題・小テスト等の取組を強力に進め、自宅学習を促し「ほぼ毎日家庭学習ができている」と答える生徒の増加に努める。 ○SHR前の数学に関する学びなおしや基礎力診断テストの各回毎の実施に向けて、事前学習問題集の徹底指導等を行う。	○生徒の家庭学習がほぼ毎日できている生徒の割合(H27年度末 24.3%) A35%以上 B30%以上 C25%以上 D20%以上 E20%未満 ○基礎力診断テストの結果がDゾーンに該当する生徒数の割合(H27年度末 52.7%) A45%未満 B50%未満 C55%未満 D60%未満 E65%未満			
ICT教育の推進	○iPadを導入した協同学習の推進及び他校との連携等による活用の発信	○ICTを活用した学習は、普通科の授業及び専門学科の授業においても次第に浸透し実施されるようになってきた。 ○専門学科である情報科学科では、大学の遠隔講義についてICTを導入して受講する等校外の施設との連携を行っている。また、ホームページ作り等で地域と連携した取組みは多く行っている。	○授業にiPadを用いたICTを導入することにより、授業改善をより一層推進し、主体的な学習者を育成する。 ○専門学科「情報」1・2年生にiPadを一人一台もたせ特別支援学校との交流等、様々な場面での効果的な活用を提案し発信していく。	○iPadを活用した授業について校内研修や情報提供を行うことにより授業改善をより一層推進していく。 ○iPadを情報科学科1年生は購入・2年生には、一人一台貸与し、常時携帯することで、授業だけでなく、部活動、家庭等での利用場面の広がりについての効果を検証する。加えて、特別支援学校と交流を深め、導入が進んでいるiPadについて効果的な活用方法を提案し発信する。	○iPadを使うことで授業に関心を持ち、主体的に取り組むようになったと答えた生徒の割合(H27年度 76.2%) A85%以上 B75%以上 C70%以上 D65%以上 E60%未満			
キャリア教育の推進	○キャリア教育(勤労観・職業観を育てる教育)の充実 ～3年間を見通した進路指導の実施	○1年次から「キャリア塾」等を実施し、進路指導部を中心とした3年間を見通した組織的な取組を早い時期から継続実施している。課外指導や学習セミナーへの参加者も増加傾向にある。	○自分の学力や適性を認識させる工夫や取り組みを実践し、自己を磨くために必要な態度を育成する。その中で生徒の勤労観・職業観を育て、進路意識の高揚を図る。	○キャリア教育の視点に立って学年・分掌・科・教科で連携を密にしながらか組織的な取組を継続する。また進路指導計画に基づいて3年間全員の進路決定を支援するとともに1・2年に早い時期から進路意識を持たせる上級学校見学会等の取組を有効に活かす。	○本校は自分の適性や進路希望を生かした進路指導が行われていると答えた生徒の割合(H27年度末 77.9%) A85%以上 B80%以上 C75%以上 D70%以上 E70%未満			
	○規範意識の確立と礼儀・マナーの指導の充実	○生徒の主体的な「気づき」の指導を推進していくも、生徒との意識のずれもあり十分には成果を得られていない。	○高校生らしい端正な身だしなみ、社会人として求められる礼儀・マナー等を身につけさせるため「気づき」の指導を徹底していく。	○服装や身だしなみ整備以外に、遅刻を無くする等の時間厳守の取組や挨拶指導、5S等についても生徒とのきめ細やかな面談や家庭との密な連携を行い「気づき」の指導を徹底していく。	○服装や身だしなみがきちんと整っていると答えた生徒の割合(H27年度末 90.6%) A95%以上 B90%以上 C85%以上 D80%以上 E80%未満			
	○人間関係形成力の構築	○一昨年度よりいじめアンケートを年3回実施。QUアンケートも踏まえながら、良好な学級集団づくりに取り組むとともに人権教育LHRを充実させ、自らの課題として取り組む参加型LHRを推進している。	○生徒の実態を踏まえながら、人間関係や自己の生き方・在り方を考えさせる教育活動を充実させる。	○QUアンケートやいじめアンケート結果を踏まえながら、引き続き良好な学級集団づくりに取り組むとともに人権教育LHR充実のため一昨年度新設したHR推進委員と連携をとり、自らの課題として主体的に取り組むLHRをより推進する。	○人権や命を大切に育てる教育がおこなわれていると答えた生徒の割合(H27年度末 86.1%) A90%以上 B85%以上 C80%以上 D75%以上 E75%未満			
活力ある学校づくり	○学校裁量予算 学校独自事業の推進によるスペシャリストの育成	○学校独自事業を推進し小中学校との交流や中学校への出前授業、各種催しへの参加、更には資格取得の取り組み等、着実に成果を上げている。	○「技術挑戦事業」、「調査・研究」、「チャレンジ資格」などのスペシャリスト育成事業に取組み、専門高校としての活力ある学校づくりを推進する。	○引き続き中学校への出前授業や文化祭への出展も含め小中学校との連携を図るとともに、資格取得に積極的に取り組み、生徒一人当たり年間1.85件の資格以上の取得を定着させる。	○生徒一人当たりの取得資格・検定数(H27年度末 1.51件) A1.85件以上 B1.75件以上 C1.5件以上 D1.0件以上 E1.0件未満			
	○生徒会活動、特別活動、部活動、ボランティア活動等の充実	○各種委員会活動等、自主的な活動がまだ少なく十分には活性化できていない。部活動加入率は83.4%であるが取組の活発さは部によって差がある。	○生徒会活動、部活動、ボランティア活動、TEAS活動等をととして、生徒の自主的な活動をさらに広げる。部活動参加意欲を高め継続的な活動を推進する。	○各種委員会活動等、自主的な活動ができるよう支援していくとともに、部活動結果報告を行い、部活動参加意欲を高めることにより部活動活性化を図り、部活動加入率85%以上を維持していく。	○自分は部活動に積極的に取り組んでいると答えた生徒の割合(H27年度末 74.1%) A85%以上 B80%以上 C75%以上 D70%以上 E70%未満			
開かれた学校づくり	○学校外との交流の推進と広報活動の充実	○専門高校の特性を活かした地域交流事業は活発である。ホームページの更新は、各分掌・学年・部活動で温度差があり、まだ迅速に行うことができていない部分もある。	○「異世代交流事業」、「地域ときらり事業」などの地域交流事業をより一層推進する。また、学校教育活動に関する情報を適切にわかりやすく発信する。	○ホームページの更新を各分掌・学年・部活動で温度差なく迅速に行うよう取り組むとともに、学校情報紙を中学校や地域、家庭に配布し広報を積極的に行う。また、地域と連携した土曜授業等事業についても取り組む。	○ホームページ等を活用して積極的に情報発信していると答えた保護者の割合(H27年度末 68.8%) A75%以上 B70%以上 C65%以上 D60%以上 E60%未満			
	○湖陵フェスタの開催	○地域や保護者・中学校へ本校に来ていただき、各科の学習内容や取組を理解してもらう機会が十分とは言えず、より積極的な学校ピーアールに至っていない。	○湖陵フェスタを開催することで、本校の教育をより積極的に地域、企業、関連進学先、中学生に知っていただき、学校の魅力を発信する。	○各学科との連携と生徒実行委員会を中心に、生徒の活動を積極的に引出すことで、湖陵フェスタをより充実したものとする。 ○折込広告やホームページ掲載等により、フェスタの開催を積極的に広報する。	○湖陵フェスタ来場者アンケートで湖陵高校についてよく理解できたと答えた割合で判断する。 A80%以上 B70%以上 C60%以上 D50%以上 E50%未満			

評価基準 A:十分達成[100%] B:概ね達成[80%程度] C:変化の兆し[60%程度] D:まだ不十分[40%程度] E:目標・方策の見直し[30%以下]